

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38070700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	愛媛県大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成23年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市の東部神南山のふもとにある星城は市内唯一の3フロアを持つグループホームです。洋風の建物で、各フロアからの眺めは雄大です。緑に囲まれて静かな環境の中で利用者様は生活されています。各フロアと行き来しながら穏やかに過ごされています。
 ・職員は各フロアで理念を挙げ目標を持ち研修に参加しながら介護力を身につけています。夏には夕涼み会を開き地域の方々に気軽にきて頂けるようにしておりグループホームを知って頂いています。今後も認知症について地域に広げて行きたい。
 ・職員は利用者様との信頼関係を築き、感謝の気持ちを忘れないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者の医師は定期的に診療を行い、必要に応じて専門科の診察を受ける等、適切な医療を受けられる体制が整っており、利用者や家族は安心して生活している。管理者はソフト勤務の中で、現場の状況を把握し事業所運営を行っている。地域の消防団に建物の構造や利用者の状況を知ってもらい、災害時の協力を依頼している。職員は利用者や年長者として敬う心を持ち日々のケアに携わっており、利用者との信頼関係を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム星城

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 井上喜代香

評価完了日 平成 23年 8 月 23 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) フロアに理念を挙げ実践に繋げるようにしているが新人職員もいる為必ずしも共有しているとは言えない。全員が理解できるようにしたい。</p> <p>(外部評価) 法人の理念をもとに地域と連携すること等、事業所独自の年間目標を作成し各ユニットに掲示している。さらにユニットごとに職員間で話し合い、わかりやすい言葉で表現した具体的な目標を掲げ、実践されるように努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所の方への年末の挨拶や回覧版の中に新聞を入れて頂いている。催しものがある時は交流しているが日常的には出来ていない。</p> <p>(外部評価) 地域の方に運営推進会議へ出席してもらい情報提供をもらっている。地域の草ひきに職員が参加したり、事業所の夕涼み会に来てもらったり、年末には事業所ですいた餅を近隣に配布する等、交流している。同法人が近くで開設している保育園の子供たちとも楽しく交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方々との交流は少なく活かされていないのが現状であるが少しずつ活かしていけるように努力したい。 職員が講師となりヘルパー養成講習をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一回開催している。知見を有する方も出席されており色々な意見や要望を頂きサービスに活かしている。	
			(外部評価) 2か月に1回の会議には市担当者や地域住民代表、利用者家族等が参加し、活動報告や意見交換がされている。議事録は詳しく記載されており、参加できなかった職員にも報告している。	事業所からは管理者やユニットの責任者が毎回出席しているが、一般職員も交替で会議に参加し、出された意見をサービス向上につなげるような取組みに期待したい。また、誰が参加したのか、どのような意見をもたらったのかを明確にする等、記録の方法についても検討を望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の構成員として参加して頂き協力を得ている。市のサービス担当者会に参加し情報交換や介護保険に関する制度等の説明を受けている。	
			(外部評価) 市担当者とは積極的に協力関係を築くよう努めている。スケジュールを合わせて毎回運営推進会議に出席してもらい、事業所運営のために必要な情報提供や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束しないよう取り組み話し合うようにしている。さりげない声かけや一緒に同行する等して安全面に配慮しながら工夫するようになっている新人職員もあり周知出来ていない事もある為、徹底したい。	
			(外部評価) 身体拘束についてのマニュアルを作成している。積極的に研修を受け正しく理解をし、実践できるよう努めている。ドアに鈴を付けて、見守りをしながら施錠しないよう取り組んでおり、身体拘束をしないケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の変化に気をつけ職員で情報を共有している。研修に参加し報告し周知するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度に関する理解は不十分である。研修や勉強会を行い周知するようにしたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に見学や訪問をして頂き不安をなくすようにして理解、納得が得られるようにしている。契約時にも説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱の設置や介護相談員の来所もあり意見が言えるようにしている。	
			(外部評価) 近くに住む家族は頻回に来訪があり、その都度希望や要望を聞くようにしている。家族から要望があり入浴の苦手な利用者にドライシャンプーの利用を検討した事例もある。夕涼み会等の行事を利用し家族会を開催する等、家族との交流を積極的に行うよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスで意見を交換したり改善したい事等ホーム長会議で話し合うようにしている。 (外部評価) 月1回の業務カンファレンスには、ほぼ全職員が参加し意見交換等を行っている。職員からは、休暇の取得や外部研修への参加等、いろいろな意見や提案が出されている。管理者は職員が話しやすいよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修への参加をして努力や実績を把握し有資手当をつけ向上心が持てるようにしている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 習熟度に応じた研修に参加してスキル向上に向けて知識を高めている。法人内研修や外部研修に参加し介護の質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議で認知症の方の支援等を説明したり理解して頂けるように努力している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の希望や話を傾聴しケアプランに取り入れるようにしている。安心する声かけや話し方に留意し信頼関係を築くようにしたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に事前調査や家族様に見学をして頂き不安を取り除くように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査や見学をして頂き必要なケアを話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様のこれまでの経験や知識を参考に利用者の出来る範囲の手伝いをして頂いている。一方的な介護を受ける立場に置かない様に心掛けて支え合う事の大切さを学び感謝の気持ちを示している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や必要に応じて報告し本人の立場を理解し絆を切らないように関係性を心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来て頂き関係性が途切れない様に支援に努めているが馴染みの人や場所の関係性はできていない。 (外部評価) 家族と外出や外泊をした際には、近所の馴染みの店で散髪したり買物をしたりしている。職員と一緒に馴染みの店に行き、知人と会って話しをする等、関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの個性を把握しお互いが支え合う思い合える場面作りをしている。中庭に出て話をしたり職員が間に入り関係性が保てるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者様が亡くなられて契約が終了する事があり継続的なかかわりは出来ていない。入院をされた場合はお見舞いに行くようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃の会話や本人の思いや希望を把握しカンファレンス等で活用している。困難な場合は日常の会話や表情などから読み取るようにしている。 (外部評価) 利用者ごとに担当制にしている。新たな情報を把握した場合はケース記録に記載し、カンファレンス時に報告し全職員で情報を共有している。職員は利用者一人ひとりの視点に立った対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査を行い情報収集している。馴染み物や生活歴を家族や本人から聞きケアに活かせるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルサインチェックを行い身体状況や変化、気づきを記録に残すようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回のケアカンファレンスを行い意見の交換、提案を取り入れ計画を立てて共有している。	
			(外部評価) 月1回のカンファレンスで利用者一人ひとりについて担当者の意見をもとにモニタリングを行い、3か月毎に計画を見直している。事前に利用者や家族の要望を確認し、必要に応じて主治医の意見をもらっている。担当者名が記載された計画書を交付し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日頃の変化や気づきを個別に記録している。利用者の声や言動も記録し計画の見直しに役立てるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 往診の対応や必要に応じてかかりつけ医の受診の送迎等を行うようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防署立ち会いのもと避難訓練を行っている。ボランティアの受け入れも行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月2回の往診と必要に応じて利用者の変化に対応してお り適切な医療が受けれるようにしている (外部評価) 法人代表が利用者全員の主治医になっており、月2回 訪問診療が行われている。必要に応じて皮膚科や歯科 の往診も受けることができ、適切な医療が受けられる よう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師に状態の変化や気づきを伝え個々に受診や往診 の指示をもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院までの経過や生活の状況を情報提供し治療の参考 にして頂いている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期に関する指針を定め契約時の説明出来るように している。必要に応じて変化があれば報告を行い家族 の希望を聞いて対応するようにしている。 (外部評価) 重度化及び看取りの指針を作成し、入居時に説明し同 意を得ている。昨年からは希望確認書も作成し、利用 者や家族に説明し記入してもらっている。運営推進会 議でも議題にあげ検討している。	事業所の看取りに関する方針を実践するために勉強会 をする等、職員のスキルアップを図り、利用者や家族 の意向に沿い安心して最期が迎えられるよう、今後の 取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会や定期的な構習を受けて実践出来るようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の避難訓練を行っている。水害や地震時に訓練が出来ていない。 (外部評価) 大型消防車が通行できない高台にあり、地域の消防団の方に建物の構造や利用者の状況を知らせて協力を依頼している。年2回の訓練時に消防署員より防災に関する指導を受けている。スプリンクラーを設置する等の安全対策も講じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 誓約書を交わし個人情報の取り扱いに十分に注意している。声かけや声のト音に注意しさりげない声かけを行うようにしている。 (外部評価) 職員採用時に個人情報の取り扱いに関する説明を行い誓約書を作成している。また、新人職員には接遇研修を受講させている。トイレ誘導時は特に利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者のペースに合わせた対応をして自己決定出来るような場面作りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 身体介護の必要な利用者もあり個々の希望に沿う事が難しくなっているが、一人ひとりにあった支援、希望を添えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 化粧をしたり着替えをしておしゃれをする場面がある。さりげない声かけで清潔に心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片づけ等一緒にしている。食事での会話の楽しみながら行っている。 (外部評価) 利用者や職員の意見が反映されたバランスのとれた季節感のあるメニューとなっている。食材の味を活かし薄味で美味しく調理されている。職員も一緒に食卓を囲み、利用者の状態に合わせて支援しながら同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の摂取量や食べやすい大きさを把握しており体調や状況に応じて調整している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きやうがい声かけしてを行うようにしている。義歯の洗浄も行い清潔を保つようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 身体介護が多い利用者様は自立した排泄は難しいが排泄パターンを把握しさりげない声かけをしている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。利用者の状態や状況に合わせてポータブルトイレを使用する等、適切に対応がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動や散歩をして予防したり水分チェックを行っている。慢性的な便秘には主治医の処方による薬で対応する事もある。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の体調に合わせて入浴が出来るようにしている。入浴介助時にはゆっくり楽しめるようにしており会話も大切にしている。	
			(外部評価) 最低、週2回の入浴を行い清潔が保てるよう努めている。脱衣場に暖房設備があり、冬場の入浴も快適に行える。入浴できない場合は家族の希望でドライシャンプーを利用するなど工夫して支援している。入浴の苦手な利用者には声かけ等工夫しながら気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調に合わせて対応している。睡眠パターンを把握するようにしている。休息が取れるよう必要に応じて体位交換をして安楽な体位を工夫している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明や医師による指導により薬の用法、副作用に注意している。介護記録に説明書を添付し分かるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割を持っている方には出番が出せるように場面作りや声かけを行うようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的には外出は出来ていない。家族様の協力で外出することがある。中庭に出て散歩出来るようになってる。	
			(外部評価) 家族と一緒に自宅へ帰ったり、季節に合わせて花見や紅葉狩り等、ドライブに行っている。気候の良い時期は近くを散歩したり外気浴もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理出来ない方は管理しているが、小銭を持っている方もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・電話は取り次ぎ出来るようにしている。 自分から掛ける事はない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 混乱の無いように音に配慮している。室温や換気への配慮し健康管理にも注意している。玄関に生け花や壁画をして季節感を味わうようにしている。</p> <p>(外部評価) 高台からの景色を眺め、季節を感じながら生活することができる。室温や換気も適切に管理され、利用者は快適に過ごすことができている。廊下の壁に利用者が製作した習字等の作品や行事の写真を飾る等、楽しく生活できるよう工夫されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 中庭にベンチを置きゆっくりくつろげるようにしている。畳にスペースも利用できるように声をかけている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みの物を持ってきて頂き写真等を貼って居心地良く過ごせるようにしている。混乱を招くような物は置かない様に工夫している。</p> <p>(外部評価) 各居室に洗面台とベッド、タンスが備え付けられている。鏡台やテレビ等は使い慣れた物が持ち込まれ思い思いの居室となっている。リネンはリースを利用し、掃除等も行き届いており、清潔な居室で気持ちよく過ごすことができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレの場所や居室には名前を表記して分かるようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	愛媛県大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成23年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市の東部神南山のふもとにある星城は市内唯一の3フロアを持つグループホームです。洋風の建物で各フロアからの眺めは雄大です。緑に囲まれて静かな環境のなかで利用者様は生活されています。各ふおろあと行き来しながら穏やかに過ごされています。
 ・職員は各フロアで理念を挙げ目標を持ち研修に参加しながら介護力を身につけています。夏には夕涼み会を開き地域の方々に気軽にきて頂けるようにしておりグループホームを知って頂いています。今後も認知症について地域に広げて行きたい。
 ・職員は利用者様との信頼関係を築き感謝の気持ちを忘れないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者の医師は定期的に診療を行い、必要に応じて専門科の診察を受ける等、適切な医療を受けられる体制が整っており、利用者や家族は安心して生活している。管理者はソフト勤務の中で、現場の状況を把握し事業所運営を行っている。地域の消防団に建物の構造や利用者の状況を知ってもらい、災害時の協力を依頼している。職員は利用者を年長者として敬う心を持ち日々のケアに携わっており、利用者との信頼関係を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム星城

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 山本修司

評価完了日 平成 23 年 8 月 24 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 共有理念はあり、それを踏まえて各階での全体、個人の目標を掲げている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念をもとに地域と連携すること等、事業所独自の年間目標を作成し各ユニットに掲示している。さらにユニットごとに職員間で話し合い、わかりやすい言葉で表現した具体的な目標を掲げ、実践されるように努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩の際に挨拶をしたり、地域行事参加や当施設での夕涼み会に来て頂いたり、運営推進会議等で地域の方に新聞を見て頂いたりしている。</p> <p>(外部評価) 地域の方に運営推進会議へ出席してもらい情報提供をもらっている。地域の草ひきに職員が参加したり、事業所の夕涼み会に来てもらったり、年末には事業所ですいた餅を近隣に配布する等、交流している。同法人が近くで開設している保育園の子供たちとも楽しく交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方への協力は十分ではないが地域からの協力は得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で話し合った内容を記録した物を掲示し、スタッフ間で見れる様にしており、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 2か月に1回の会議には市担当者や地域住民代表、利用者家族等が参加し、活動報告や意見交換がされている。議事録は詳しく記載されており、参加できなかった職員にも報告している。	事業所からは管理者やユニットの責任者が毎回出席しているが、一般職員も交替で会議に参加し、出された意見をサービス向上につなげるような取組みに期待したい。また、誰が参加したのか、どのような意見ももらったのかを明確にする等、記録の方法についても検討を望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議などで意見交換をし協力関係を築いている。	
			(外部評価) 市担当者とは積極的に協力関係を築くよう努めている。スケジュールを合わせて毎回運営推進会議に出席してもらい、事業所運営のために必要な情報提供や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修での内容をスタッフ間で周知したり、マニュアルを作成している。	
			(外部評価) 身体拘束についてのマニュアルを作成している。積極的に研修を受け正しく理解をし、実践できるよう努めている。ドアに鈴を付けて、見守りをしながら施錠しないよう取り組んでおり、身体拘束をしないケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 危険の早期発見、職員間・入居者間のストレスの軽減、家族などの面会時も気にする様になっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで勉強したり、該当ケースがある場合は再度職員間で話し合い理解を深める様にしようとして話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に家族・身元引受人の方に十分に説明をし、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置したり、面会時に話をする様にして、要望・意見を聞く様にしている。 (外部評価) 近くに住む家族は頻回に来訪があり、その都度希望や要望を聞くようにしている。家族から要望があり入浴の苦手な利用者にドライシャンプーの利用を検討した事例もある。夕涼み会等の行事を利用し家族会を開催する等、家族との交流を積極的に行うよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ケアカンファレンス・業務カンファレンスで話し合うなどしている。 (外部評価) 月1回の業務カンファレンスには、ほぼ全職員が参加し意見交換等を行っている。職員からは、休暇の取得や外部研修への参加等、いろいろな意見や提案が出されている。管理者は職員が話しやすいよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資手当をつけ、資格取得といった向上心を持てる様に取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加してもらったり、研修内容を業務カンファレンスなどで報告してもらうようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) サービス担当者会議に参加、運営推進会議での意見交換や他施設への見学訪問で意見交換をするなどしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の希望や不安などを聞いて本人第1に考える様なプラン作成するなどし関係作りをする様に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族から希望・不安などを聞き、家族さんの不安が無くなるようなプラン作りをし関係を築いていく様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査等で得た情報・プラン作成前のアセスメントと職員間の話し合いなどでプラン作成をして本人・家族さんに説明をし納得をしてもらいサービスを開始している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事など職員だけでは無く、入居者さんと一緒にする事で関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんも関わられるサービス内容を作成したり、面会に来られた際に支援して欲しい事を聞くなどしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族さんに外出や外泊した時に、近所のお店や近所の方と話をするなどして関係を途切れない様に協力して頂いている。また、昔の写真などを家族さんに持って来て頂いて面会時に活用する様にしている。 (外部評価) 家族と外出や外泊をした際には、近所の馴染みの店で散髪したり買物をしたりしている。職員と一緒に馴染みの店に行き、知人と会って話しをする等、関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お手伝いをしてもらう際に1名ではなく2～3名で手伝ってもらうようにしたり、皆さんでレクリエーションする様にしたり、入居者さん同士の会話の中に職員が入りワンクッションおく様にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 死亡時・長期入院時の利用終了が多いが、施設等を移動しても利用時（在居時）の情報を聞かれたら対応する様にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 帰宅願望が強い時は希望に十分に添えていないが、家族さんの協力を得るなどして出来るだけ本人の希望に添える様に努めている。	
			(外部評価) 利用者ごとに担当制にしている。新たな情報を把握した場合はケース記録に記載し、カンファレンス時に報告し全職員で情報を共有している。職員は利用者一人ひとりの視点に立った対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査・本人からのアセスメントや面会時に情報を得る様に努め、得た情報は職員間で共有し活かす様にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや日誌などでの申し送り等で職員が一人ひとりに関わって身心の情報把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のケアカンファレンスで話し合っ、相談・モニタリング等を活かし状況変化に都度対応する様になっている。	
			(外部評価) 月1回のカンファレンスで利用者一人ひとりについて担当者の意見をもとにモニタリングを行い、3か月毎に計画を見直している。事前に利用者や家族の要望を確認し、必要に応じて主治医の意見をもらっている。担当者名が記載された計画書を交付し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・業務記録に記録して残し、確認したら印を押すなどして共有したり、ケアカンファレンスなどで話をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の状態変化に応じてアセスメントし、家族に相談したり、スタッフ間で話し合ったり等、その都度柔軟に対応する様になっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の文化祭や運動会に参加する等している。家族さんと外出・外泊をされた時に馴染みのお店や近所の方と話をさせていただける様に協力して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医の月2回の往診があるが、本人・家族の希望す る病院がある場合、家族に協力して頂き受診しても らっている。	
			(外部評価) 法人代表が利用者全員の主治医になっており、月2回 訪問診療が行われている。必要に応じて皮膚科や歯科 の往診も受けることができ、適切な医療が受けられる よう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 管理者が看護師なので都度状況報告し、状態によって 病院受診をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) サマリ作りをして情報交換をしたり、入院者の面会 の際に看護師に状態を聞く様になっている。家族さんか ら、緊急時の希望を聞き主治医に伝えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に看取りについての説明、緊急時の希望等の話 をして、実際に看取り状態になると家族に説明し主治 医・看護師と方針を相談し対応する様になっている。	
			(外部評価) 重度化及び看取りの指針を作成し、入居時に説明し同 意を得ている。昨年からは希望確認書も作成し、利用 者や家族に説明し記入してもらっている。運営推進会 議でも議題にあげ検討している。	事業所の看取りに関する方針を実践するために勉強会 をする等、職員のスキルアップを図り、利用者や家族 の意向に沿い安心して最期を迎えられるよう、今後の 取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の方による普通救命講習を行い、緊急時に備える様にマニュアル作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練や緊急時に近隣のお宅に助けを求められる様に連絡網を作りお願いするなどして、災害時に備える様にしている。 (外部評価) 大型消防車が通行できない高台にあり、地域の消防団の方に建物の構造や利用者の状況を知らせて協力を依頼している。年2回の訓練時に消防署員より防災に関する指導を受けている。スプリンクラーを設置する等の安全対策も講じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の情報を入居者の前で話さない様にしたり、お手伝いをお願いする際や呼ぶ際は名前ですんだり、何かしてもらった時に感謝の言葉がけをする様にしている。 (外部評価) 職員採用時に個人情報の取り扱いに関する説明を行い誓約書を作成している。また、新人職員には接遇研修を受講させている。トイレ誘導時は特に利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で選択肢を作り、自己決定をする場面を作る様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員主体になる場合もあるが、一人ひとりのペースを大切に希望を聞き行う(入浴時間)様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容を自分自身で鏡を見て出来る様に工夫している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 盛りつけの工夫や食事作りを一緒にする・味見をしてもらったり片付けを一緒にする様にしている。	
			(外部評価) 利用者や職員の意見が反映されたバランスのとれた季節感のあるメニューとなっている。食材の味を活かし薄味で美味しく調理されている。職員も一緒に食卓を囲み、利用者の状態に合わせて支援しながら同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量・水分量チェックをして摂取量の把握をする様にしている。個々の好き嫌いを把握する様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の状態で、一部介助・全介助等で口腔ケアをする様にしている。週に二回入れ歯の方はポリドントを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 誘導が必要な方の排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導をする様にしている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。利用者の状態や状況に合わせてポータブルトイレを使用する等、適切に対応がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く摂ってもらったり、同じ飲み物にならない様に工夫する様にしている。また、個々に応じた運動や腹部マッサージなどを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 好きな時間中に入って頂いたり、本人に入るか入らないかを決定してもらっている。	
			(外部評価) 最低、週2回の入浴を行い清潔が保てるよう努めている。脱衣場に暖房設備があり、冬場の入浴も快適に行える。入浴できない場合は家族の希望でドライシャンプーを利用するなど工夫して支援している。入浴の苦手な利用者には声かけ等工夫しながら気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 好きな時間に寝てもらおう様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬状を介護日記にコピーして見れる様にし把握する様にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の手伝いや話を楽しんでもらえる時間を作る様にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の身体レベルに合わせた外出支援を考えたり、家族さんと外出できる様にも協力して頂いている。	
			(外部評価) 家族と一緒に自宅へ帰ったり、季節に合わせて花見や紅葉狩り等、ドライブに行っている。気候の良い時期は近くを散歩したり外気浴もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理の出来る方は、買い物時に支払いをしてもらう様にしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人より希望時は電話の取り次ぎをして本人と話してもらう様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掲示物を貼ったりして季節感を感じられるようにしたり、トイレ掃除を都度する等して不快な臭いがすることがないようにしたり日差しの向き・室温などを気を付けるようにしている。	
			(外部評価) 高台からの景色を眺め、季節を感じながら生活することができる。室温や換気も適切に管理され、利用者は快適に過ごすことができている。廊下の壁に利用者が製作した習字等の作品や行事の写真を飾る等、楽しく生活できるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳が上がって座椅子に座りテレビを見てもらったり、廊下の途中に椅子を置いて休んでもらったりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の馴染みの物を持ってきてもらい、本人の好きな配置で居室作りをする様にしている。	
			(外部評価) 各居室に洗面台とベッド、タンスが備え付けられている。鏡台やテレビ等は使い慣れた物が持ち込まれ思い思いの居室となっている。リネンはリースを利用し、掃除等も行き届いており、清潔な居室で気持ちよく過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 本人がバルコニーで花を育てたり、洗濯物が干せれる様にしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700295
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム星城
所在地	愛媛県大洲市徳森土肥1790番地3
自己評価作成日	平成23年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・大洲市の東部神南山のふもとにある星城は市内唯一の3フロアを持つグループホームです。洋風の建物で各フロアからの眺めは雄大です。緑に囲まれて静かな環境の中で利用者様は生活されています。各フロアと行き来しながら穏やかに過ごされています。
 ・職員は各フロアで理念を挙げ目標を持ち研修に参加しながら介護力を身につけています。
 ・夏には夕涼み会を開き地域の方々に気軽にきて頂けるようにしておりグループホームを知って頂いています。今後も認知症について地域に広げて行きたい。
 ・職員は利用者様との信頼関係を築き感謝の気持ちを忘れないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者の医師は定期的に診療を行い、必要に応じて専門科の診察を受ける等、適切な医療を受けられる体制が整っており、利用者や家族は安心して生活している。管理者はソフト勤務の中で、現場の状況を把握し事業所運営を行っている。地域の消防団に建物の構造や利用者の状況を知ってもらい、災害時の協力を依頼している。職員は利用者を年長者として敬う心を持ち日々のケアに携わっており、利用者との信頼関係を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム星城

(ユニット名) 3 階

記入者(管理者)
氏名 徳生ナナコ

評価完了日 平成 23年 8 月 11 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) いつでも見えるところに掲示しており、行事計画や日頃のケアに繋げている。フロアの理念もある。</p> <p>(外部評価) 法人の理念をもとに地域と連携すること等、事業所独自の年間目標を作成し各ユニットに掲示している。さらにユニットごとに職員間で話し合い、わかりやすい言葉で表現した具体的な目標を掲げ、実践されるように努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 通勤や植木の水やり時の挨拶に気をつけている。地域の行事（清掃）に参加している。回覧版にホームの新聞を入れて頂いている。</p> <p>(外部評価) 地域の方に運営推進会議へ出席してもらい情報提供をしてもらっている。地域の草ひきに職員が参加したり、事業所の夕涼み会に来てもらったり、年末には事業所ですいた餅を近隣に配布する等、交流している。同法人が近くで開設している保育園の子供たちとも楽しく交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では話し合っているが具体的には行っていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し会議での意見を参考にしサービス向上に役立っている。	
			(外部評価) 2か月に1回の会議には市担当者や地域住民代表、利用者家族等が参加し、活動報告や意見交換がされている。議事録は詳しく記載されており、参加できなかった職員にも報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や介護相談員の来所があり、サービス担当者会議に参加している。	
			(外部評価) 市担当者とは積極的に協力関係を築くよう努めている。スケジュールを合わせて毎回運営推進会議に出席してもらい、事業所運営のために必要な情報提供や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ドアにチャイムを設置し利用者の様子を常に確認している施錠は行っていない。 全員ではないが研修を受けている。又研修報告として全員で話し合った。	
			(外部評価) 身体拘束についてのマニュアルを作成している。積極的に研修を受け正しく理解をし、実践できるよう努めている。ドアに鈴を付けて、見守りをしながら施錠しないよう取り組んでおり、身体拘束をしないケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全員ではないが研修を受けている。 研修報告として全員で話し合い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全職員が理解できるように勉強会を行いたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 不安や疑問点等を十分に聞き納得を得られるように個別の配慮を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族来訪時や電話で個別に意見や要望を聞き取るよう努力している。 意見箱を設置している。 (外部評価) 近くに住む家族は頻回に来訪があり、その都度希望や要望を聞くようにしている。家族から要望があり入浴の苦手な利用者にドライシャンプーの利用を検討した事例もある。夕涼み会等の行事を利用し家族会を開催する等、家族との交流を積極的に行うよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回の全体での業務カンファレンスとユニット毎のケアカンファレンスを開催している。 (外部評価) 月1回の業務カンファレンスには、ほぼ全職員が参加し意見交換等を行っている。職員からは、休暇の取得や外部研修への参加等、いろいろな意見や提案が出されている。管理者は職員が話しやすいよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資手当を付資格といった向上心を持てるよう取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加し報告を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人外グループホームとの交流を持ち総合訪問を行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査を行い本人と十分に話しをし思いを理解又、見学に来て頂くなどして顔なじみになるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査を行い家族の思いを理解できるよう関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) その方にあった支援やサービスを受けられるような対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が出来ることは出来るように支援し、職員から”ありがとう”と言えるような関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には家族の思いを聴き取れるような会話に務め電話や面会等家族の支援もお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行き慣れた所に行き物に行き知人に出会って会話する事がある。 御家族以外の友人や知人の面会がある。 (外部評価) 家族と外出や外泊をした際には、近所の馴染みの店で散髪したり買物をしたりしている。職員と一緒に馴染みの店に行き、知人と会って話しをする等、関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) トラブルにならないような関係作りをし良好な関係になるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院時に情報提供を行っている。 お見舞いに行くようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話や行動により本人の思いを把握するようにしている。	
			(外部評価) 利用者ごとに担当制にしている。新たな情報を把握した場合はケース記録に記載し、カンファレンス時に報告し全職員で情報を共有している。職員は利用者一人ひとりの視点に立った対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や面会時に聞いている。 聞き取りの難しい時もあるが少しずつアセスメントを行い把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 全職員が把握できるよう申し送りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の会話や面会時の会話によりアセスメントを行っており月1回のカンファレンスで話し合っている。 3ヶ月に1回モニタリングを行い介護計画を作成している。 (外部評価) 月1回のカンファレンスで利用者一人ひとりについて担当者の意見をもとにモニタリングを行い、3か月毎に計画を見直している。事前に利用者や家族の要望を確認し、必要に応じて主治医の意見をもらっている。担当者名が記載された計画書を交付し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の記録を行い申し送りの徹底、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしているが記録の内容に気づきや工夫の記入がない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 体調に合わせた受診や往診依頼を行っている。その都度家族への連絡や報告も行っている。 希望時の電話の取り次ぎ等を必要に応じて対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 2ヶ月に一回の介護相談員の来所がある。 年2回の避難訓練 園児との触れ合い	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医がおり往診が可能である。 (外部評価) 法人代表が利用者全員の主治医になっており、月2回 訪問診療が行われている。必要に応じて皮膚科や歯科 の往診も受けることができ、適切な医療が受けられる よう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 相談出来る体制になっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 系列に診療所があり連携出来ている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの関する指針がある。 家族や医療関係者と連携し共に取り組んでいる。 (外部評価) 重度化及び看取りの指針を作成し、入居時に説明し同 意を得ている。昨年からは希望確認書も作成し、利用 者や家族に説明し記入してもらっている。運営推進会 議でも議題にあげ検討している。	事業所の看取りに関する方針を実践するために勉強会 をする等、職員のスキルアップを図り、利用者や家族 の意向に沿い安心して最期を迎えられるよう、今後の 取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年一回救命講習を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練を行っている。 地域の方の連絡網を作成している。 (外部評価) 大型消防車が通行できない高台にあり、地域の消防団の方に建物の構造や利用者の状況を知らせて協力を依頼している。年2回の訓練時に消防署員より防災に関する指導を受けている。スプリンクラーを設置する等の安全対策も講じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーや尊厳を守るようさりげない対応や配慮に努めている。 (外部評価) 職員採用時に個人情報の取り扱いに関する説明を行い誓約書を作成している。また、新人職員には接遇研修を受講させている。トイレ誘導時は特に利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の会話や行動によりその人を把握しておりその人らしく自己決定出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その方の体調や性格等その人に合ったケアに取り組んでいる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張理容室、美容室を利用している。 出来る方は起床時に整容出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一部の利用者と準備や片づけを一緒に行っている。 (外部評価) 利用者や職員の意見が反映されたバランスのとれた季節感のあるメニューとなっている。食材の味を活かし薄味で美味しく調理されている。職員も一緒に食卓を囲み、利用者の状態に合わせて支援しながら同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その人に合った支援を行っている。 (食器、好み、お粥、おにぎり) 食事チェック、水分チェックを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後行っている。 必要な方のみうがい薬でのうがいで清潔保持を行っている。 強い拒否があり全員ではないが週一回の義歯消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居前に寝たきりでおむつを使用されていた方がトイレでの排泄を勧めて行き立位乗も声かけと見守りで出来るようになった。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。利用者の状態や状況に合わせてポータブルトイレを使用する等、適切に対応がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物を工夫している。 入居前はおむつを使用され便秘であったがトイレで排泄するようにしてから以前よりスムーズな排便になった。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 順番等、出来るだけ希望に添えるように努めている。 入浴拒否が多い方にはタイミングや声かけを工夫してゆっくり楽しめるよう個々に対応している。	
			(外部評価) 最低、週2回の入浴を行い清潔が保てるよう努めている。脱衣場に暖房設備があり、冬場の入浴も快適に行える。入浴できない場合は家族の希望でドライシャンプーを利用するなど工夫して支援している。入浴の苦手な利用者には声かけ等工夫しながら気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼寝をしたい方、早く寝たい方テレビを見てから休みたい方、その方にあつた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) すぐに確認できるようファイルしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味や好きな事が出来るよう環境作りに努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や買い物等支援をしている。 家族と外出される方もいる。	
			(外部評価) 家族と一緒に自宅へ帰ったり、季節に合わせて花見や紅葉狩り等、ドライブに行っている。気候の良い時期は近くを散歩したり外気浴もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望される方には、かぞくの下承を得て所持されている。 買い物時は自分で支払われる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状出せるよう支援している。 電話の取り次ぎ、プライバシーの保護に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアに季節の花を生けるようにしている。 車椅子の利用者が増え窮屈であるが工夫して対応している。	
			(外部評価) 高台からの景色を眺め、季節を感じながら生活することができる。室温や換気も適切に管理され、利用者は快適に過ごすことができている。廊下の壁に利用者が製作した習字等の作品や行事の写真を飾る等、楽しく生活できるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居室以外で一人になれる場所がないが、思い思いに過ごせるように支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 簡易ベットを用意し家族の方が泊まれるようにしている。 個人の枕や毛布等、使い慣れたものを使用している。	
			(外部評価) 各居室に洗面台とベッド、タンスが備え付けられている。鏡台やテレビ等は使い慣れた物が持ち込まれ思い思いの居室となっている。リネンはリースを利用し、掃除等も行き届いており、清潔な居室で気持ちよく過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室が分かりやすいように名前を書き、目印になる物をつけている。	